

全国農政連推薦・農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

【自民党会合で酪肉近の議論に参加】

2月12日(水)、自民党畜産・酪農対策委員会が開催されました。今回は、5年に1度見直しの「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針(酪肉近)」の検討のため、団体ヒアリング(JA全中・JA全農ミートフーズ・中央酪農会議・Jミルク)全国肉牛事業協同組合)が行われました。私は、様々な観点から意見(長期的視点が重要、和牛需要拡大対策の効果検証と追加対策の検討、長期的な牛肉消費構造のイメージ明確化と低価格層牛肉の対応具体化、自給飼料対策の強化、畜産・酪農生産者への金融対策の強化、獣医不足対策)を述べさせていただきました。酪肉近については、引き続き農水省審議会および党会合にて議論されていきます。



▲2月12日 自民党畜産・酪農対策委員会

【食と農消費者理解醸成PTに出席】

2月14日(金)、自民党食と農への消費者の理解醸成と行動変容に向けた施策検討PTが開催されました。会合では、学校等での食育の取り組みにかかる関係者ヒアリング(JA全国女性協、JA全青協、東京都小平市)が行われました。私は、学校での農業体験には関係者

の経費負担と学校の理解に差があること等の課題が根強くあるため、文部科学省のカリキュラムに入れ込み仕組み化する必要がある、と意見致しました。PTでは、今後も提言取りまとめに向けて議論を重ねていきます。

【東日本大震災被災地の調査視察】

2月17日(月)・18日(火)の2日間、私は参議院東日本大震災復興特別委員理事として、東日本大震災被災地の復興状況にかかる現地調査視察に伺いました。1日目は、岩手県宮古市を訪問し、漁協関係者との意見交換、岩手県こころのケアセンター職員との意見交換を行いました。また、三陸鉄道の現状も視察しました。さらに、岩手県大槌町を訪問し、大槌町長との意見交換、岩手県立大槌高等学校との意見交換を行いました。

2日目は、福島県浪江町の福島国際研究教育機構および福島県大熊町の中間貯蔵施設を視察しました。また、福島県富岡町を訪問し、特定期間居住区域等を視察しました。

発災から間もなく14年経過しますが、様々な課題があることをあらためて認識・実感することができました。委員として、国会の場でできることについて尽力して参ります。関係者の皆様、あらためて感謝申し上げます。



▲2月18日 参議院東日本大震災復興特別委員会視察・福島県富岡町

全国・農政連推薦
参議院議員山田としおの
農政問題に斬り込む

中山間地農業はわが国の食料安全保障上重要な役割を果たしています

日本の国土面積の約5割を占め、

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全等の多面的機能を発揮している「山村」の振興をはかるための「山村振興法」が、本年3月末で期限切れを迎えるため、自民党では、「山村振興特別委員会(委員長：岡田直樹参議院議員)において議論をすすめています。法期限の10年間延長のほか、法の目的規定にある山村の役割に「農林水産物の供給」や「地球温暖化の防止」「生物多様性の確保」等の今日的役割の追加や、移住政策、二地域居住を含む関係人口の増加促進を明確化する等、目的規定の追加・充実等を議論していきます。

さらに、2月からは野党にも働きかけ、山村振興法に関する超党派の会議を開催し、立憲民主党、日本維新の会、国民民主党、共産党等とも協議し、議員立法に向けて議論を深めています。

また、「中山間地農業を元気にする委員会(委員長：進藤金日子参議院議員)では、次期基本計画に盛り込むべき施策について、委員会としての提

言をとりまとめるべく議論がすすめられています。検討の視点としては、①条件不利地域での生業を支えるためには、どんな支援が必要か、②関係人口を増やすためには、どんな施策が必要か、③基盤整備を進めて条件不利性を解消し、中山間地域の特性を生かした稼げる農業を進めていくためには、どんな施策が必要か、というものです。

中山間地域は、国内の農家数、耕地面積、農業産出額のそれぞれ約4割を占める重要な地域です。これまで、国民の食と国土を守ってきた、これからも守っていく必要があるんだということを、広く訴えていくことでありませんか。頑張りましょう。



▲南九州の青壮年部のみなさんと